

連載
第26回

福聚山史

池浦 泰憲 文
及川 一晋 編

大正から昭和にかけて

8、柴田一能上人と山田一英上人 (一)

今回は柴田上人の原点であるアメリカ留学について取り上げた。

明治三十六年(一九〇三)九月、柴田一能上人は多くの収穫を携え二年間の留学から帰国する。

帰国後、上人はすぐに、明治三十七年(一九〇四)四月一日に開校する日蓮宗大学の創立に、及川眞能上人の秘書として創立に奔走することとなる(連載第二十一回)。そして、自らも教育現場に立ち、明治四十二年(一九〇九)日蓮宗大学教授となつて倫理学・英語を、母校慶應義塾では心理学・倫理学を講義し、アメリカ留学で学んだ西洋学問を日本に伝えていく。

一方、僧侶としては、大正四年(一九一五)日蓮系の各教団が、政府の宗教政策への対応として統合するにあたり、その統合規約調印の世



明治42年(1909)頃の柴田一能上人。(「慶應義塾写真データベース」より転載)

話をつとめ、その統合の動きの中で結成された「天晴会」の創立メンバーとして名を連ねる。

また、大正七年(一九一八)頃には、その天晴会にて「日蓮主義より見たる自説」と題して講演し、この他にも、様々な集会における講演に全国を回つた。そして、昭和六年(一九三一)には宗務總監など宗門内の重職を歴任した。

しかし、こうした仏教者としての活動は宗門にとどまるものではなかった。当時、宗派を超えて多くの仏教徒が集まつた「全日本仏教青年会連盟」に参加し、カリフォルニア州へ布教に飛び、また、その拠点となる神田中央仏教会館建設の中心となつた。そしてさらに、日本、満洲、中国、アメリカ、ハワイ、カナダ、インド、セイロン、ビルマ、シヤムの各国の仏教徒が集結し、「各自の民族的文化を尊重しつつ、相互の親善と理解とを深めて佛教徒ブロックによる国際的貢献」を目標とする「汎太平洋佛教青年会大会」の準備委員長(昭和八年)もつとめた。このように上人の活動範囲は日蓮宗宗門から日本仏教、さらには世界の舞台へと広がっていったのである。

昭和七年(一九三二)十月、宗祖六五〇遠忌の記念事業として、東京南千住に立正診療院が開院する。日蓮宗病院の開設は柴田上人の大きな目標の一つであった。上人はキリスト教による医療事業の手法をアメリカで見聞しており、その経験をもとに、兄弟弟子である山田一英上人とともに事業に取り組んでいったのである。なお、診療に当たつた医師のなかには、後

の日本医師会会長武見太郎氏や、柴田上人の次男実氏がいた。

ところで、この診療所開設にも取り組んだ常円寺第三十四世山田一英上人(本覚院日真上人)は、神田中央仏教会館の建設にも常務理事として関わっており、柴田上人と行動をともにすることが多かった。

上人は、明治七年(一八七四)、福井県今立町南中津山に生まれ、明治十四年(一八八〇)に出家する。その後、明治二十八年(一九〇五)、柴田一能上人の勧めにより八王子本立寺住職をつ



明治三十年(一八九七)七月撮影の慶應義塾高等科の卒業生写真。中央に福沢諭吉が座り、前より二列目、左から三人目に柴田一能師が立つ。(「慶應義塾写真データベース」より転載)

とめていた及川眞能上人の弟子となつた。常円寺住職の後には、本山平賀本土寺五十六世、宗務總監、大本山京都妙顕寺五十八世を歴任する。さらに戦後には、日蓮宗第三十八代管長に就任し宗門の重職を担つた。

山田上人は、大正元年(一九一二)、大正天皇の即位とともに恩赦となつた囚人を保護する施設「東京慈濟会」を創立するなど多くの社会事業に取り組んだ。こうした社会事業とともに布教の現代化、強化をはかった。

また、上人は各地で講演会を開くとともに、各々の宗派が自分の派内のみで活動する「セクシヨナリズム」を排し、いわゆる「汎仏教的運動」を強く進めていた。こうした運動のなかで、及川眞能上人の同門である柴田上人と行動をともにしていったのである。

柴田上人はアメリカ帰りのハイカラ僧侶で、デビューしてからの名前で、すこぶるひょうきんな人柄だったといわれる。そこで、柴田のバタと一能の一をとって「バター」というニックネームがつけられていたといふ。一方、山田上人も山田の山と一英の一をとって「山一」というニックネームを授かり、二人は周囲から「バター・山一」の名コンビとよばれていたといふ。山田上人も英語に堪能であり、二人がウマが合う共通項がいくつもあつたようである。

二人が取り組んだ「汎仏教的運動」は、日本の仏教の各宗が、自分の宗門のみのせまい視野に固まらず、西洋哲学もとり入れて根本仏教に帰り、仏教全体が統一的存在であるべきとの主張に基づいていた。柴田上人は、山田上人とともにこうした志のもと数々の活動に力を注いでいったのである。

今回は、山田一英上人の事跡にも触れながら更に歴史を振り返つてみたい。(つづく)